

2025 年 7 月 2 日

学校法人三幸学園
名古屋ビューティーアート専門学校
校長 古渕 泰弘 殿

学校関係者評価委員会
委員長 伊左治 資生

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 伊左治 資生（株式会社バディ 取締役マネージャー）
- ② 梅崎 美和（株式会社セイファート マネージャー）
- ③ 桃田 千里（コーセー化粧品販売株式会社 第 15 期卒業生）
- ④ 浅野 栄介（有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 26 日（会場 名古屋ビューティーアート専門学校 701 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人三幸学園名古屋ビューティーアート専門学校

自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊左治 資生

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

1. 【情報伝達／共有】各種業務のスケジュールリングをしっかりと行い、スピード感を増した正確な実行性を重視
 - ・teams を活用し、教員間で学校情報・生徒情報を共有し、担任講師間の報連相強化を図った。
 - ・的確な TB シートの作成と、それに準じた実務実行により生徒伝達に迅速性を図った。
2. 【教職員】社会人のマナー、モラルを再確認し生徒の模範となる言動を徹底
 - 一社会人としての言葉遣い、態度、生徒対応を再確認し、ハラスメントに発展しかねない指導や圧力（威圧的な態度・適切な言葉選び）になっていないか教職員全体で注意を払った。人として尊敬されるような言動を改めて考えた。
3. 【授業運営】時間厳守・規律保持・ルール遵守の徹底
 - ・号令、挨拶、環境設定、聴く姿勢など入学時オリエンテーションの指導内容と教務指導のルールを徹底した。
 - ・コマシラバスで1コマ毎の授業スケジュールを管理し、学生の集中力も加味した休憩時間に配慮した。
 - ・宿題よりも授業内容を充実させ、必須の宿題より自習用課題へシフトした。

② 学校関係者評価委員会コメント

梅崎委員：メンバー一体化に向けては、サイボーズの活用をしている。（誰もが全員のスケジュールを見ることができるシステム）サロンの情報を活用している。緊急性があるものは LINE も活用している。

桃田委員：生徒育成という点では、新人育成と連動する部分があり、現在当社では新卒が4名入社しているが、臨機応変さにかけているイメージがあり、言葉の掛け方が困難に感じる点もある。伝え方をきちんと考えないと、思ったように伝わらないという点では現在の学生と同じように、工夫が必要だと感じる。

伊左治委員：少し厳しい指導をするとすぐ退社してしまうような時代からは変わり、学びたい姿勢（意欲が高い）の人材が増えたように感じる。また、1on1 ミーティングも実施しており、先輩が後輩とチームを組み、メンターを実施している。1on1 のペア改善も柔軟に実施することで、退社を防ぐ施策にもつながっていると感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校の理念・目的・育成人材像について、今年度の新入生とその保護者については、入学前のオリエンテーションを通して伝えることができていますが、保護者に対してのアプローチが単発であり、学校生活の中で生徒への指導の真意を理解されない場面も見受けられたため更なる周知が課題である。

業界のニーズに関しては、従来の企業との関係性の中から情報収集され生徒育成の指針となっており、適切に行われている。サロンワークを授業に取り入れ即戦力となる生徒を育成するためにも関連企業との関係性づくりを引き続き行い、特別授業の依頼など業界のニーズに答える人材育成に邁進できる土台作りが課題である。

② 今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像については、生徒だけでなく保護者に対しても定期的な通信等で発信を行い、理解を深める。

業界のニーズに向けた人材育成という点では、サロンや企業の特別授業を開催いただく形で、相互間で協力しあうことを検討実施していく。

③ 特記事項

社会経済のニーズが急激に変わっており、教育現場もニーズに合う受け入れ方法について検討を始めた。
（トータルビューティー科、エステティック科在籍生徒の美容師免許の取得に向けたクラス増設など）

④ 学校関係者評価委員会コメント

伊左治委員:ビューティーアート専門学校の生徒をサロンに入社してほしいと思っているサロンが多いが、企業側と学校の接点が少ないのではないかと感じる。授業派遣だけだとサロンのイメージが付きにくく、特別授業のような形式の、単発の機会ではサロンのカラーを知るような機会があるとよいのではないかと感じる。

特別授業を実施したいサロンは多いが、すべてが良いサロン（学校に合ったサロン）ではないかもしれないので、セグメントする必要がある。

面接やセミナーを実施すべき時期は、例年早くなっている。

梅崎委員:美容業界に憧れのみをもって入学する生徒たちは多く、働くという事については、自分事に捉えられていない人が多い。その為、1年生の夏休み前後から『学生と社会人との違い』や『働く意義・働くとは？』という話を実施している学校も存在する。夏休み明けから実施することで、面接練習前に「仕事について考える」動機付けをすることができるのではないかと感じる。また、その際に「傾いて話を聞く」等の人としての姿勢を改めて伝え、当たり前の習慣とるように伝えていくことが、今後の就職活動にも生きていくと感じる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的や事業計画に沿った運営方針が策定されており、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され有効に機能しており、学校運営については適切になされている。情報システム化による業務効率化については Teams の活用が安定運用されてきており業務効率に寄与した成果もあげられるが、ICT のアップデートの速度が速く、またオンデマンド型授業・ハイフレックス型授業を標準化する上で、教職員の ICT 教育にさらに力を入れることが課題である。

② 今後の改善方策

オンデマンド型授業・ハイフレックス型授業の運用を標準化するために、運用する教職員の ICT 研修を実施することでスムーズに活用できるようにし、さらに授業の質を高めていく。また当校の美容実習の教育ツール VR についても標準化を図り、技術力のアップを効率的に行えるように改善していく。

③ 特記事項

より納得感のある評価制度・給与制度が導入され、期初に目標を明確にし、期末に振り替えることで、教職員の成長にもつながっている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：特に問題なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

次年度に向けてさらなる生徒数の増加が予測される。学校規模拡大に伴うハード面充実と教育の質を担保するための教員採用（確保）に努めていくことが課題である。

② 今後の改善方策

卒業生の中には美容師免許取得後、結婚などライフスタイルの変化によってリタイアしている休眠美容師が多い。メイクを専門で学びに来ていたが、よりレベルの高いメイクの検定を受けたいと思うことがあった。伊左治委員：学校の授業内容に無駄は無いと思うので、「どこで火をつけるか」という危機感を持たせることが重要なポイントかと思う。外部（サロン）にて火を付けさせ方がいいのではないかな。

③ 特記事項

City & Guilds の導入により、専門性の高い技能と知識を提供できるようになった。多数の企業連携をして幅広く活躍できる人材を育成する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

桃田委員：キャリア教育という点では在校生時代に、サービス接遇検定を受けていてよかったと思うことが多い。メイクを専門で学びに来ていたが、よりレベルの高いメイクの検定を受けたいと思うことがあった。

伊左治委員：学校の授業内容に無駄は無いと思うので、「どこで火をつけるか」という危機感を持たせることが重要なポイントかと思う。外部（サロン）にて火を付けさせ方がいいのではないかな。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

退学については、精神疾患、目標喪失、人間関係という理由が多く、職員会議内で退学率低減に向けた教務対応策を実施しているが次年度に向けても大きな課題である。

資格試験については、美容師国家資格の筆記試験対策が課題と考える。

社会に出て必要な生徒の社会人基礎力の向上に向けた取り組みと就職先企業との良い関係性維持は継続課題である。

② 今後の改善方策

退学者低減については、生徒・クラス状況を早期共有して担任だけでなく、学年・学科全体で対応していく。また退学示唆があっても期の途中ですぐに退学に結びつけず様子を確認しながら登校を促していく。退学者の10名に1名が通信制高校卒業生であるため、オンデマンド授業・ハイフレックス授業・集中講義期間を設け、徐々に週5日登校に慣れる取り組みも実施する。

美容師国家資格の筆記試験については、学力格差もあり指導が難しいが、プロジェクトチームを立ち上げ早期から取り組みをして、苦手科目を把握できる状態にして問題点をクリアさせていく。

③ 特記事項

職業観を醸成する特別授業、目標喪失しないための講話などは生徒の反応も非常に良いため、今年度も積極的に実施してモチベーションを下げない工夫をしていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

桃田委員：「そこに入ることがゴール」と思っている生徒が多い。（※本校に入学して終わり・入社して終わり）「こうなりたい！」と思うためにも、目標の先輩を早期に見つけることが大切かと思う。会社説明会などで卒業生を呼んだり、職場見学に出向いて卒業生の姿をみることで、身近なゴールイメージを醸成し、学習意欲にもつながっていくと感じる。また、在校生と触れ合うことで、卒業生の立場からも初心に帰ることができる。

梅崎委員：夏休み後の退学したい気持ちを抑えるためにも、4月から夏休みに入る前の段階で、関連企業からサポートをいただき、「サロン見学ツアー」を実施していると聞いている。

実施することで、自分の就職したいサロンのイメージを持つことにつながることで、1人ではサロン見学に行きにくい生徒も、はじめにサロンとの接点を作ってあげることが、今後の行動にもつながっていくと感じている。

伊左治委員：有名スタイリストに講話をしていただいてもいいかもしれない。

梅崎委員：国家試験の筆記試験について、自宅学習ができるアプリを導入している学校もあり、筆記試験の合格率が上がった例もあると聞いている。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

同窓会LINK、卒業生LINEの定期的な配信を含め、卒業生との関わりの幅を広げていくことが課題である。卒業生の再就職については、個別に受け付けて対応しているが、現状を合理的に把握して、卒業生と企業ニーズを学校がつなぐことでできる方法の検討が必要である。

課外活動については、不定期にご依頼を受けたヘアメイクイベント等に参加しているが、業界との産学連携や様々な団体の主催する催しなどに任意参加できる体制(特別活動など)を整え積極的な産学連携につなげていくことが課題である。

② 今後の改善方策

卒業時に同窓会LINK、卒業生LINEの登録を図り、卒業生との関わりを定着させているが、今年度からは同窓会委員も選出し本格的に同窓会を稼働していく。卒業後も学校との関わりを継続し、独立支援や学びの継続などの卒業生支援をしていく。

③ 特記事項

学校の中だけが教育の場と考えるのではなく、広い視野にたった包括的な支援を意識・実践する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

桃田委員:卒業生向けのセミナー(学校で学んだ幅広いことを学びたい・スキルアップ)があれば良いと感じている。また違う美容業界で活躍している方々のお話も聞きたい。

非国試系の学科を卒業した生徒に関して、美容師免許も取得しとけばよかったと思う卒業生も多いのではないか。卒業生同士で接点を持つような機会があれば、お互いの刺激にもつながっていくと感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

大きな課題はないが、経年劣化による校舎設備等の補修などが発生した。

② 今後の改善方策

これまで通り、定期的な点検および適宜修繕を実施する。また生徒の増員に対応するため特別教室を改修し教室を増設して、効果的な教室稼働を実現する。

③ 特記事項

海外研修に加え、韓国ヨンソン大学との教育提携による教育体制が整備されつつある。

④ 学校関係者評価委員会コメント

浅野委員：経年劣化による補修を都度かけていただいているので、大きな問題はないのではないかと。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

愛知県の規定に沿って適切に募集活動を行っているため大きな課題は無い。定員充足による募集停止も想定されるため、その際の対応は慎重に行う必要がある。

② 今後の改善方策

AO 入試や特待生入試等の入試方法について、説明不足から誤解を招かぬよう説明・対応に努め、受験希望者の不利益にならないように配慮していく必要がある。

募集定員の充足状況については、HP や SNS への掲載とオープンキャンパスで早めに告知を行う。また高校へは早めに告知(周知)して、信頼関係を損なわないよう配慮する。

③ 特記事項

トータルビューティー科・エステティック科にはメイク・エステ・ネイルの技術や知識を学んだあとに、プラス 1 年で美容師免許を取得できる研究科がある。美容師免許取得のニーズが高まっているため、募集活動の際広く知ってもらおう広報活動を充実させる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（委員コメントなし、特段問題ない）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の途上であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守については、職員に対して一層理解を深めるための働きかけを継続する必要がある。労働基準の遵守については、特に時間外労働について留意すべきである。

② 今後の改善方策

コンプライアンスの遵守については、各種ハラスメントのガイドブックを活用し全教員に研修を行う。

個人情報の取り扱いについては、個人情報遵守のための動画視聴を義務付ける。

時間外労働の削減やフレックス制度の積極的な実施を促すため、各種新情報システムツールを用いて業務削減を行っていく。

③ 特記事項

時間外労働については、ノー残業デーの導入など、職員の残業に対する意識改革にも取り組む。

④ 学校関係者評価委員会コメント

梅崎委員:若手の世代は残業しない(効率よく働く)姿勢が見受けられる。社内では業務バランスを課題として考えているので改善していきたいと考えている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

教育効果を得ることができる地域貢献活動に積極的に参加することが必要とされる。また生徒のボランティア活動支援のための施策の取りまとめも課題である。

② 今後の改善方策

技術提供や接客を通して教室内では学ぶことができない教育効果が期待できるため、サロンワークの授業や模擬サロンなどの行事を通して社会貢献・地域貢献を行っていく。また地域社会の一員という自覚をもつことで、近隣の方への配慮や思いやりの心を醸成する。今後は技術提供する地域貢献活動のみならずボランティア活動も特別活動を認め奨励していく。

③ 特記事項

イオンノリタケと提携し、地域の方々にエステ、ネイルなどのトータルビューティーを提供した。提供できる内容を熟考して継続していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（委員コメントなし、特段問題なし）

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の入学は毎年数名程度、積極的な募集活動は行えていないことが課題である。

② 今後の改善方策

今後留学生が増加した場合を想定し支援体制作りを進めておきたい。また、留学生に対する進路（就職）斡旋の強化と情報収集を行っていく。在日外国人は生活習慣や価値観の違いから欠席などが多いため、支援体制を整える。

③ 特記事項

今後様々な分野で働き手が不足する。留学生の受け入れ態勢を強化することが社会貢献にもつながる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

桃田委員：最近、インバウンドの影響で海外のお客様が増えている。

伊左治委員：東京では、サロンから留学生採用のお話しはあるが、名古屋はお話を聞かない。

梅崎委員：愛知県はネパール国籍の方が多い。「日本で働きたい」と思う人が多いが、「美容業界で」というわけではない。美容業界で働きたい人は、東京に紹介するようにしている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（委員より総評）

具体的な学校目標ならびに、自己評価内容も概ね適切であると感じる。日頃からサロンの集まりでも、名古屋ビューティーアートの生徒へ評価を貰う事も多いので、今後もよりよい刺激と教育を業界から与えられるように、密な連携を図っていききたい。

（学校側より）

2024 年度は課題に対して様々な施策を打てた 1 年であった。それに対して成果がみえたものもあれば、まだ改善の余地があるものも多くあるので、2024 年度チャレンジした取り組みを 2025 年度によりよい形で広げていけるようにしたい。生徒数が増加傾向にあるので、入学した生徒が良い形で卒業し業界で活躍できるよう企業様と連携を図っていききたい。